



小倉山庄文苑和奇席



まゝ首ハ京極黄門此をくく山庄志き一乃和奇也  
うきとせり百人一首と号するなりあまきとあきい  
うきとせり百人一首と号するなりあまきとあきい  
とみちひくけうくははりくわちのまは実とらん  
おみてもふを枝繁くはへま事あるとけ集ハ  
部へ小花とらんやうて実とまのまきくるにうわな  
急とわなふああう一黄門此心あうりれうこま  
事と口をくわひたまふゆへもや古と百人  
乃うことあらひて我山乃素よりとらあうりのなわ

小倉山

は撰乃大さの突とむひくく一と花をさくしう孫も  
そ後堀川院乃後時勅とうをたまりりて新勅撰と  
あらまらうの志う乃く病この百一ゆとおおひ  
ふゆ一十ふんれうち突ハ六七かゝるハ三四ふん  
たう一集らやこきん志うハ花実お射する志うなり  
後撰ハ突過分ととや拾遺ハむ実をたうる一断説  
やされ一くく一と一一首くはくん一と  
又て時代れ風とことととやの新古と志うを  
な城おきの國の上皇わくくあうせおまひ一  
ハ清んゆもはくくくらのゆりくふなる一し  
されハゆるしんハく後めなる志やそをくく

百首乃人数のうち世一いつのめく病りよそのそ  
く建人さ世ゆ伝文もぬと入得わきぬらんハ  
事一もやうし定家ゆれんハ人氏ありふゆはく  
あつるあう一又こきん乃まよめ教人数をさく  
得もは世ホヤくく人もるハ集くしう一ひあ  
り建ハ一のんれん一ゆはて一をうせたまん  
ハ志のくきおとゆはあう一ゆ一しうせ世小  
そ建とも思ひぬと入らあハ人れ名表あうハ  
あくるがあわく一ゆ一ゆ一ゆ一むらの  
百一ゆ黄内乃んゆはむとゆ美孫く志ううわける  
されハ一の人のううとゆもくゆあなり又

のこし海にすいふんこおのふ哥あゝおもつこく  
け建をこくくまんみりせゝあゝりやるおのの  
よふひとゆま縁く志家ゆめなふ境こそと西河も  
の志きーのう地かくおりてまんくさあわりの  
款ハ歌小口傳するあともそこーやくひさこハ  
りんへらさうりけ建と大おの越こくわハよあふ事  
にな建こ志并て侍ドゆわふへ養ゆりかハうち  
あふハふ代わふハ款ハゆそ産成ハ極わふ人ハこ  
いまこあゝあまはる首ハ二條家ハ骨目ナリハ新  
とまつて後娘定家ハんまもこくわちわあとお説  
りんへわし

てんら天皇出製

舞れ田乃うりけの庵れと海とわこえ

りりる海もていつ遊こーぬまは

りわわのいかなは一日のいりりかれ庵一せらぬ

かりいかないかなわらりか乃るかもよまよま

とそらとしいわいのいかなよ海一海まきらわ

りり人ほ哥ハ同事とわらひよむりみられ義也

まそまれら海ハ舞ハ舞ハいかな乃るまよまきて秋

もす魚になわりハちもまよまよまらちちりるこく

露とふせくりりもまよまよまよまよまよまよま

あまわたりり神のぬあゝりりあまれハまら乃は

述懐の情しこなればきまハ九洲おかり一きり  
時世とあそまきいひてうたへり也此国をさるふら  
の人と若紫きてと城一なるい一すあり天子  
乃強し方出て御用ん乃りあふハ五及もさるや  
とく心に命をあり一めは心なわとまはさるる  
かたいかそかくごすやしあ城これとらぬ一  
この奇ハ上代此風なり上右ハんふくおひ  
つるまは相心さふふくしうくく銀器と相り  
とま事そ

らうてん日う製

表とくふつきまをきら一志海へ入

し海もかてふりぬれかく也

右は奇ハ表とて夏きふけら一とくくさるる海は乃  
事とそらうら一すまこらんつわけさうに  
志く人なわりの一表もはまハ高佐のくさ  
そゆ人ハ阿まのかく山一しつき山もそ表乃るハ  
歳妙くおがひかく一てそ連ともかえぬう表  
のすまおまももたなら一表てなわればおの  
ゆうこくとめ白り一ゆると白ぬれ衣がはゆハ  
いふなわらすハ衣れあんなわつてり明小足ゆる  
そそそ一あ人乃衣中ハいよと去却とあり表  
ハふらまのし海をにむかりれ一山うたうけみの





人ふらきさらぬえいハ好勝りまらまきらねは  
秋ハつづきハせんころの依にゆるらん月やあつぬ  
かこれうごといりれくるこそ

申 袖云ッ急もち

からくまのわごせはりーりそく頼乃  
しーらまといは敷そあけりき  
はりらくまのりーり事七夕小いころ義入りハ  
さういせはまやう乃事ハきつるひのこの糸  
たろりにきけいあまらね心うほみちり人并位も  
けさくハ秋心ありあえさきあつりーりんへ  
らぬはーのうごはハ冬ふかくなつて月をま

雲もなぐりれさる秋霜いてんりみちてはくは  
けくたる涼衣なごりあきおくおもりくうんせ  
あまらあふへりす

あまらなるはろ

あまれりしうわさけみまハうぬうなる

みりこれあまらりしうー月うも

これハ申は海とりあーハ物なごりーにはうハ  
されりころさてうれさあめ別とりふあそこの  
た人かりきとがさけりる時月とあそよめ敷こそ  
あわうけみまハとばあわあふの貴んる候やうし  
あまらあふの貴んる候やうし



あふのまへもち落んでえれどもけんをも落し一人  
此ふらわおしむる落月めいすむわてりあは  
空もくもさあまし落我朝のみうさあをありあはく  
きうらちも落つまれうちよ入くるやうあははかく  
いんわれくこのあはも落し一人のふにわを  
もとふらあまれくをも我國の事なきさうと思ひ  
入てえゆるへまうりそそけ高く余勢かまわあ

あふのまへ

わの庵ハもやられたらうまきうそすむ

よ城うちあまといひといりよなる

この新ハおかし明なわ宇治山としくも我ハ

位はうもやう乃んかなわ古といちうううあは  
といゆるハ世とじら出と人といくもとあはく  
款と人ハリよなわといくともうをさし去あ  
舞ハ月とあふみ何りはあはあにあくことけり  
うそらもあまうううううううううううう  
うううううううううううううううううう  
は雲れううううううううううううううう  
あわれもそらあううううううううううう

小野小町

花北よりううううううううううう

わのあせうあめあめあめあめあめあめ





阿美倍の勢雲かよひ海をさくららよ

おこめはすくこちしーかきりん

五世の事そのの袖うる山のすけりわ出くれい  
ういぬれうひれねとあまたなめふもとあせまん  
あとも敷なまよとのなわをんせうけ哥入りやう  
あまはまれなるかより定家やのんふりあつわとそ  
うあふは舞むめにく務とかくゆゆは行ら  
ううまひれりをやめくかくいよめるなわ五世つ  
れちとらんち天皇にたときまきあまの山へ夫人り  
くこまをみまひ袖とあくー七海ひーなわえんま  
おこめはすくこちしーかきりん

阿美倍の勢雲かよひ海をさくららよ

おこめはすくこちしーかきりん

阿美倍の勢雲かよひ海をさくららよ

おこめはすくこちしーかきりん

心いぢのうふむりひそのーここの深きはりひこ  
なるとあ乃のすかあふのはちわてあちとあふ小  
たらんいつるあまそふーせい席款あま哥のんハ  
これまそなわさそきこ乃何うこそあもーらあ  
田へゆるや天さ乃所意少はとくーれ事事も行り  
あふしうあ善ハ天下の徳懸ハてんりのうれへとや  
大前乃人も又は心と思ふいささーやは川す急 橋川

へおほるみほりもハまほれ下とと残里て河も  
みえは一とへはあつてすそそ河とほなり

みちりくれ志のよもちすわこれゆへ

みまそあふーわあななく

と二のわとこあつる序也一首乃んハこれゆへ  
が乾そりーとれもあつす君あふとといゆる  
こもなち古とゆはえこれんと思ふとあり伴  
物あつるゆはえあつとあり

わらうこう天白

仁和のつりと強みりーおりーくるさきむと小

あ業たひくる後

きまうとめまは野おりてわろなほむ  
わろろもまろゆもさあわは

これんもん神乃とつらうらんま心はれゆと  
なり詞れとつぬと去哥ゆはかまへーとく  
分別すまし心ハ密ハるーものこへと数なり  
君をわりよとゆえーふろーとへま事と  
志はくろーなりけさろとと能くおりふ

申細云り平

なちりつとあはれ山はみほよが

きろとーまろハいほあへりらん

はうと俊姫乃依小阿まちにくさねすきてし海し  
ううと依と今かくらんとしひなりしうあゆふ  
らんあまを心ハ明なりあ殿待人たりあうハ  
解うきうあわらんときうう海なうまう人もゆ  
と思ふんとし魚取なりあり

二條の葉と記書文のうやとと海とヤけりし時  
海やうふりうふ海川おもみちありきこる  
うけ海とといふ

なわむら乃阿そん

ちうやぬる神もまきうすたう回うを  
ううくれふ井りりみつうう海うは

さハ海は善人の神を月なをさ田うさハあのみ  
をなむまきうらりきこる木義にありし海ふのよ  
かうとこるやうなる真と神代ゆもくは事ハ  
まうすとりぬり業平乃うこを大いやくさ阿まわく  
祠うぬとこれハんまをとうけしるあふしゆ人に  
入らうくなわこれをもつて百首ハおもむきをえ得  
ふさ小あり 神代ゆありや志多人揚花うふ  
乃うきーにおあつたうーハ同く海なわ

藤原ハやうゆきれあそん

すみれ江のきーハあふなうあうんや  
ゆあれうよひらひとあうくらん

上二句ハ常なるうらむらんをいふんこあてふハ  
うはこれ事とそこのふ海巾ハ望とめとよく海  
さりとらわあしーくも何事なすめは能くもあらん  
こおりのをすなれ肉も人めとよく海やうのり  
このをなかくうあまうはりーさ奇なるこそ

伊勢

なふはあてんーいあしーれあれ海の  
あつそらあよ城すーくよとや  
はなふしうこやふ人やうふらひりーうる五  
なわ君らんれあしーあらんいまのすういあわ  
のーとしいはめてせんとあつとあわ能くうんぬら

すー一歎乃心のわらひうあーうわらあもえん  
とまめあまもをまほくーう海をもくこき成ハ  
このつて色ー一あはいみけもふあふーせ事  
月とつこあましあもいーうとんたとわらひあまら  
うる上はうちあけきえりひ出さる歎あをみしつき  
あー乃あーれ海とはいらくかろくわしと去う海  
なわあかろうふあやうらあまのみはへしすそ  
恋小初中なあわこの哥ハ戀れおりの心なり

もとうーちんこら

こしおちを後京極のあやとあよはうりーける  
まひあまハい海くこあまーなふはあ

あはれく〜とありん〜とありよ  
これいふ多の御門北の御系極のまやほと〜路に  
まのひてかよひくるわ〜りれて後又ほ〜り〜  
奇也まひの御門北の御系極のまやほと〜路に  
あ〜こ〜ゆきをま〜よ〜や〜れ〜い〜海い〜又あり候〜も  
た〜ら〜め〜名をた〜め〜か〜ふ〜ま〜あ〜れ〜男とほ〜く〜ハ  
あ〜は〜れ〜あ〜ん〜な〜ち〜は〜し〜こ〜ハ〜ゆ〜ふ〜ろ〜ん〜の〜神〜な〜ち〜と〜そ  
た〜ろ〜ん〜を〜あ〜お〜よ〜り〜と〜う〜ち〜ふ〜り〜あ〜な〜と〜し〜て〜ま〜き〜い  
河〜貴〜ろ〜ろ〜ふ〜ま〜き〜換〜と〜能〜ぎ〜ん〜み〜す〜へ〜ま〜よ〜し〜も〜ふ〜ろ〜を

世の心は

い海〜んとりひ〜し〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜長月は

あはれけの月とまら〜ろ〜海〜あ

あ明月を待いた〜心〜一〜葉〜花〜依〜あ〜〜と〜この〜あ〜ろ〜そ  
月〜く〜と〜城〜く〜わ〜り〜小〜燈〜さ〜人〜長〜月〜花〜を〜あ〜な〜ら  
ゆ〜く〜心〜と〜ま〜く〜替〜り〜ひ〜入〜て〜あ〜ら〜し〜〜ふ〜〜葉〜あ〜な〜ら〜定〜ぬ  
の〜ら〜う〜あ〜も〜一〜葉〜花〜事〜あ〜わ〜〜は〜〜ゆ〜ら〜ら〜也

うんやれ〜い〜ひ〜そ

う〜く〜う〜に〜秋〜の〜草〜す〜未〜花〜一〜か〜は〜ま〜な

む〜へ〜山〜の〜霧〜と〜あ〜〜し〜〜も〜り〜ふ〜〜ん

は〜哥〜右〜今〜も〜ま〜と〜ん〜た〜を〜〜あ〜〜葉〜よ〜し〜〜人〜を  
明〜な〜ら〜山〜花〜と〜あ〜〜し〜〜し〜ふ〜小〜灯〜と〜又〜字〜乃〜依〜と〜去〜ハ  
面〜こ〜う〜に〜も〜ら〜ひ〜す〜〜山〜は〜風〜ハ〜あ〜〜き〜も〜の〜あ〜雅〜し



嵐と去と心づわ吹くく小きふすあもち乃老介も  
大江はらち

月みまはらうーのようあーけ

わあひののあきいは何と

大のあとりつるのあは月は陰乃葉なまはらうち  
あつむるあもんすあはれみすくむる物介はそれ  
へらく母りのうあーけまといくま下乃ちハ我  
ちむとつと根小は平ゆ底ちといりんとそちむと  
の終はあは終とそりくふなちもあいう我方一乃  
るの松の勢もはくはあま

菅家

一ゆーやくのんなるにありーまーけ

たむげ山そよあは

このたひハぬちもらわあぬたむけ山

もみられあーき神ハまふく

これハ字ぬれあーけハ一筆一筆れはともて

たまうんこられたひり猿ハ字といふ義ありそを

まうふくすといひ魚海産れ字く得海くそぬ

とらわあへすとつふ小みゆきれらとーきくは

こもまはれや山乃もみちとそまき神に海ノ勢

てたむくあんなち若小はくふはるちわと

くあわえぬんあわた打けやま南教ーあり又あは



みよのこゝろききてあゝあゝいりあゝ  
しほこきとてう戀——はらん

かてならあゝいりあゝの字乃えんなり泉河のほと  
きこいりんとあゝいれも帝のあゝあゝいれく  
ん——やう乃人死いはいはてくおんぬく  
なるとな我れりひなまはくひまひてわううを  
せめてい——やう一あゝあゝいれく  
わ一月くおひひまひてしちあゝ——いりあゝ  
なひもてわくううううと我はよひ義とそ  
被あも——いれあゝいれく

源北むすひのあそん

山はといをえはひ——いれく

ひもあも草もいれあゝいれく  
ふれ哥ハ克秋のちひ——きとまうてよめ教なり  
これれ舞えくれなとハあ我あ木北の海もまた  
うう乃人めを侍と冬ふ介りてさ木義とむら草  
とつ建ははいわう人めをぬえぬと海と思ふ  
とそ又去去舞もふさひ——舞心とくはひ  
はけりえはゆるくももいり

九河内乃みり孫

ううあて母おらもやわん初病の  
ふき海としを海——きくはる

おらうもおらん世のついでに  
此事介もくははる菊はあ  
あふふいなくおがゆめ初  
何一たふとらあつちまは  
うーあふふいなくおがゆめ初  
うーあふふいなくおがゆめ初  
うーあふふいなくおがゆめ初

みよ乃うら

を明たつてあくみえーわ  
何うつてあくみえーわ

は新ハ西リくーし魚海心なよめ  
し魚海心のなれにわくも

く思ゆるハ人の事なわんハ人乃も  
りてともはくーしはくーして  
ありふに人ハなれてもてあ  
たちわつてあくし魚海心なよめ  
なりあはくーし魚海心なよめ  
なわともあくし魚海心なよめ  
てわつてあくし魚海心なよめ  
世一うあふふいなくおがゆめ初  
く思ゆるハ人の事なわんハ人乃も  
りてともはくーしはくーして  
ありふに人ハなれてもてあ  
たちわつてあくし魚海心なよめ  
なりあはくーし魚海心なよめ  
なわともあくし魚海心なよめ  
てわつてあくし魚海心なよめ  
世一うあふふいなくおがゆめ初  
く思ゆるハ人の事なわんハ人乃も  
りてともはくーしはくーして  
ありふに人ハなれてもてあ  
たちわつてあくし魚海心なよめ  
なりあはくーし魚海心なよめ  
なわともあくし魚海心なよめ  
てわつてあくし魚海心なよめ  
世一うあふふいなくおがゆめ初



ちりちり花中くふれは花人  
ふハ大市風北はふふなわともいたうらむハ  
花乃情もあかめくよとまうて喜れ目のゆよく  
とてうで久しは定とくはわいせは花もの  
し忠業木のつらものとかなるふら花をうへん  
て志解んなく花れちも解んやふつ魚体なわは哥  
よくをふうはへと除説ゆるし

藤原のあきと衆

これとかとあるむと小きんたうこのの  
まろをむりの友なる解くう  
ふハ花中く老く後つみふわかちましくにみ花

あ一人ものなハこれ世小あうへもあわ成ハ  
さ記たちてと後うぬもあわつらくふなわて  
ひりあふあ乃く後志花もふふふしう砂乃松  
しういあへくわやうのふ花んと思へし  
はあのもじーはともあひらうちなけむこれ  
とろも志る人うきんとりうよなわ下のふハよの  
す忠乃花と後くう成あけきをよありあわとあは  
人はみあ苗阿乃つ後めうきううらむととむの  
ああふ衆もなわ

花とほつさう花とあしとぬらと

ちよおそびー乃がうあひひひ  
ちよきよらつせにまふける事にはやうりり人  
乃慈ふ久しき念とってなとく後にいこりくれ  
はしの歌のあはしむくさうふあんなをりハ  
とんひりーひひひいそこふたてまら梅を  
むわてよめさびりさう草すうにめんハひりく  
むとつ建初さううふわぬ念とまそあふらん  
こーさひりーあひあわ秋もあつしゆきれ  
ゆはよびりむらさきあなわりのあふとくも  
はきうるとさうとよめ歌あま

清原北のうた

月北あまきりさうりりあはらうさういふよめ歌  
とからはあひまきよひあつあけぬと  
くもれつろくし月やとあらん  
そはく夏乃和まらわあぬあけぬさうとあ  
よめあなむ心をまきよひそとありハ明ぬあは  
あまいあぬ中らうあもあらんあまらう小月も入  
あまにかくよあはらあまのりつろふあはらあ  
雲小月ああけまらもあはらんあまらうあ  
あまあま

うんちあまあま

あまあまのうたあまあま

——露にうき吹——を海に歸ハ  
ほつぬきとめぬたまそちるくる

風乃ちき——くは志きられ依なりあき風とさ  
なちつぬきとめぬたまそちるくる  
あつぬきとめぬたまそちるくる  
しんも秋に時ほふ世ききそをたみちるけ  
この露のおも——流きに依ある風乃あきくもあき  
さるあきとささるなるもあきつ遊りく  
こみ運らりくる苗をかくよのまけい記を心お  
うくみえとせんく——葉新かか

風乃ちきうん

まらあめとあむもんはらうひて——

ひとりのちりき——くもあきつ

これハ——人乃ちこれ社をけりけくからハ空も  
たしなんと地うひさる人死ん——く時よあつ  
んハめなりうしかくらさきまるむこれの被けと  
うみは——てな城そ人と思ふんを哀らや得ん  
うんきひ——

あき城よのとろくあめりく志のふ被と

あきちくくなとひとの徳——

上ハ城の帯なり志のふきとあまをこりふ心か  
あきなるうひれ依なりあきく——



くさくさとうく思ひいあく事まつともえ人さ  
へしあまらてなとかうんとく付し一定あつこの  
あてえわ乃小野乃ゆさちしとく露も草す葉  
に河ぬ秋の夕暮は秋にあらるなわ

平乃うのまわ

天徳乃まわしせう

志れぶ禮とみ海より出ふくわわ、燕ハ

そのやあひふこひとのともま

は秋を義し朋なわう人乃うふまえあもあわあ

よしうちあけ来る意あられふ葉もあ

みふのたうん

むのし奇あしせお

あすてふわり名をうこよなちうりきわ

むと志まはあうむひうあし

はあもうんをまんは月しは二首ハしこあしせ

ははのひやおくすう一あうわくるをそあしお

あとしつひ月あいまきおやまこまこつやまあま

あし哥一代ゆは前れ哥をあてあめりあはあへ

情原のものとすけ

らありきふううみり袖と志あわは

すあはま山なまこはしあ

事つあふんかりう侍くる女小人にりりわてとあ

ふいふもあへいよかえはりのとだうひみ袖と  
志がわてあこころと契くるる教をふすころから  
まじむようよいぬるあわあさかろ袖とまじむは  
たのひれう後やお城にれかえ家をなかく  
くすすちまわらうとくまじむ心なわ

推申袖云あり

時平之男母とくまうまひあこめおら國經書  
後河ひく志傳とあふこのあおいや夫らん六  
年三月にまう

あひんそれららう後にくくまじむ  
むいハその城もいこうわり

人ふいまあひみぬをとはさつふせう一彦  
のらまらもとありふく後ひものりひまを  
ぬるとおとそはもな後を人とあなれとありふ心と  
まじむ又世乃ひとあこころとあこころと思ひ又ハ人  
乃心まいと思ふらんうらひやさんとあおん  
あくやあむと思ふん人むじ一すちり長  
いくなと思ひハすなうぬ事をかくよめ教  
なわつやうは奇あまわおやひくたまんへらんハか  
くまじむおころうんハらめけをすくまえくる  
ふ城もまじむくくやせふぬまじむくなわ

申袖云あり

あふこもひたえとくーなぐハ中ーくふ

むとなも力をもちーしーしーしーしー

是もくくゆわのまぐふもぬくしハあらつひ  
さうにありふへーはえは人とおりひそめてありれ  
くつふとあもへーともひとはあつちくーせやー月と  
すくはよらふーとたすさうらりあぬぬ人乃又と  
たえとてくいぬぬぬんしこあふたり人乃あまわ  
にうちうへーぬえとーなくい中ーくみと去なり  
古人の奇と何もぬぬくふふいはせーをゆるあつと  
みゆうあつあんとくせくーを方ふるしとく  
ういーくいちとにうたてく侍なちくれくすき

を先とせとあゝ美人おとひたつあゝきんしう

かんくこう

あれともいふまき人ハおもやえて

あはしつーくーなりぬゝふりふ

このつふまき人ハおもが忠てせふくしは他人に  
るりなちみくしんあれとあつれとあゝ美人は  
はさくぬぬしをたおに世人ふこれうはやーおあ  
らんとたひひまひてかくしんるなちとくくぎん  
みすやしそぞあひてをらおもが忠てといふ  
くくぬぬりもや

そはれうーく

逆産ハと成まづる船人うちとたえ

り 傍も——ぬひれみちうふ

ゆら乃とあ免乃あききとる路なるへ——んを大満  
と後海船小からのなるりんしたるわとう——あふへ  
きくとあわそふひれ——くわうひ路りこのむた  
らわもふくうひてり 傍なまよくも病なちゆら乃  
むせとうら出まよわのちとつとつとめ——ききと  
あまよくありひくくわあはへきとのなも

あけい法——

八重むくくまけまほ屋と乃ちひひ——ききと

ひこくとあきひあきひ——ききと

あまのよまう河原院をへばまこもせと小秋乗ると  
まう病と人こもこもくもふとゆるわはききとうききと  
まこもこもなくまこりんぬるとつあ人はおとくは  
うん——何世人れあまき——のをまはほやうあ  
てひ——をわとれぬ秋乃ここつとる病とありま  
まうちことりまこるる海敷船くやうく河原  
院のむ——を思ひはくひくはまとえゆるききと  
ゆきと——とふ人もゆきと命とくはまこくはまこくは  
むくくあまこりこもこもきわとま哥にうこはま  
りんへらぬま——ハあやうもまう——りんへらる  
らやとハ何れもそんへあま——つとゆきとう秋ら

ハな城あられ深の海へし

源北志行ゆき

風とつこみ窓うつたうこれとの禮のん

くさそりのをちのしうれ

心なうこつぬいしと人れうう海うようへんこを

世は来あまことわ身におうううしくはなわ席

飲めはもんへらんとこれはん海うふりんうう小

やをあもしうくう

大申はうりのあ

みり来まわあしーれうく火のあかりん

りうこあしはいものとううあひん

急——やう内裏山やの會なまの討火うへ急くや

哥ハこれも序ああわひのハきくやうハおもひ海はん

ううさ海あわむじのうりみちううなりひはせんこ

あましらうハもゆ海あもあう舞にーくむとめ城

はくみおまひけちううう海あ城ううーさ海さ海

へまやま海こしひ日海とまおひ乃らうーき換城

まくりひ入くえんううへ来事みひう

藤原北よりたの

女はもとまわあくわてはうりうう

若うあおらううううわし令さん

なうくもつあとなあひけうう

これと後約なと乃新なるへし一産るあまのりも  
わづんいのちももか愈んとおもひしとひびよめくも  
つらつらかあのかもとよめ教ふ的少はるんへま  
思ひきふうふこりつ詞をえふあり人を頼りふん乃  
せつあるらまなわわらんれひびよめく侍る

友原れさひこのあそん

あくとくふえをさうふあひのりよ  
あひのりよあひのりよあひのりよ  
あひのりよあひのりよあひのりよ  
あひのりよあひのりよあひのりよ  
あひのりよあひのりよあひのりよ  
あひのりよあひのりよあひのりよ  
あひのりよあひのりよあひのりよ  
あひのりよあひのりよあひのりよ  
あひのりよあひのりよあひのりよ  
あひのりよあひのりよあひのりよ

むねかろぬあひのりよあひのりよあひのりよ  
あひのりよあひのりよあひのりよあひのりよ  
あひのりよあひのりよあひのりよあひのりよ  
あひのりよあひのりよあひのりよあひのりよ  
あひのりよあひのりよあひのりよあひのりよ  
あひのりよあひのりよあひのりよあひのりよ  
あひのりよあひのりよあひのりよあひのりよ  
あひのりよあひのりよあひのりよあひのりよ  
あひのりよあひのりよあひのりよあひのりよ  
あひのりよあひのりよあひのりよあひのりよ

あけぬまのりよあひのりよあひのりよ

あけぬまのりよあひのりよあひのりよ  
あけぬまのりよあひのりよあひのりよ  
あけぬまのりよあひのりよあひのりよ  
あけぬまのりよあひのりよあひのりよ  
あけぬまのりよあひのりよあひのりよ  
あけぬまのりよあひのりよあひのりよ  
あけぬまのりよあひのりよあひのりよ  
あけぬまのりよあひのりよあひのりよ  
あけぬまのりよあひのりよあひのりよ  
あけぬまのりよあひのりよあひのりよ

若大おみちらばあひのりよ

あけきほくひとちあつよのあはははと

つらふひと一義とのうき一ふ  
まともき小入る格致ぬりちりかき家入り物とおそ  
まあけきれいたちわつしひぬと去入て侍わけ違ハ  
よそせほくりりびいはまともき小朋なり是又  
五十一おあけきほくとりくは心源なることしなわ  
らくくうやうれおをみりんへるへ義なりを上げ  
奇奇産おくやくめくはうとほ出くはるりてんぬん  
れ佐右乃義ハあつりれりんへはふや

依田之司母

まのま一れりす急まハあそ多れを

くふをかまわぬいのちともりふ

ここの義に中一岡自みちくちかよひそあけりるは  
うめととあわくれを明あるとな義人乃祠あめりこ  
け連ハ一義と思ひ出あしこまももうせんとつく  
はくは後まらつともせつある換なわくくことと  
ほりいと見ゆる一善くや一まき寺の風情なり

大納言公伝

勝れおといたえく久一をあわぬ被と

若くをあらうとくふとまへへて

これに大寺寺北まきをよめ義奇なりは勝慶と  
まもつめくつくわとま一これちわりてんを





この月小記ありいはわづらふこと多し病なり

大哉之位

ありぬあはれしるくくくくくくくくくくくく

さきつぎにうれしある男れわははるぬくなくと云  
くくくによめわ哥い帝哥いもむのし帝歌ふ歌と  
上れんもそ新れ舞にうらりんくわきハくくせよ  
いそんそめくくくくくくくくくくくくくくく  
のもくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
はよのくくくくくくくくくくくくくくくくく  
はくくくくくくくくくくくくくくくくくく

はんしきやふわんとおくくくくくくくくくく  
人そことのえそまきいてわきと人ふくくくめそなと  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
はくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
かくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

阿ううあ乃息しん

あはれをそ祿ふまの城はあうけて  
くくくくくくくくくくくくくくくくくく  
はくくくくくくくくくくくくくくくくく

めしてこころをいもじとめうしめてよめ教ふら  
むららしくやうに辱うきを祿もぢの辱と侮ちやせう  
へ心とりのむかへし心いあて人を待ふけくうを  
いもこむのふ小月さくしこむきこむんとくんとあ  
まふ心あむむりひ謙らるるなま

こきぬれ内

大江毎まいく野乃みちのう我多れと  
あまのこもさすあまのりーたて  
うらふよにのつみ武部わうーやうにくーて丹後國  
おしんへ心比えやこふしこあしせむけるに小武部  
内一舟をも待りくるを申納云定形に不祿も方に

あまのこもさすあまのりーたて  
うらふよにのつみ武部わうーやうにくーて丹後國  
おしんへ心比えやこふしこあしせむけるに小武部  
内一舟をも待りくるを申納云定形に不祿も方に  
あまのこもさすあまのりーたて  
うらふよにのつみ武部わうーやうにくーて丹後國  
おしんへ心比えやこふしこあしせむけるに小武部  
内一舟をも待りくるを申納云定形に不祿も方に  
あまのこもさすあまのりーたて  
うらふよにのつみ武部わうーやうにくーて丹後國  
おしんへ心比えやこふしこあしせむけるに小武部  
内一舟をも待りくるを申納云定形に不祿も方に

しう侍るのま大江山いく野みふりしそへ乃を  
そうくの各取やまこあもみすやふ行てもえぬ  
依あるすくし文のふとあわさるまきふつひこ  
去しふよあるなわ

伴勢大捕

うみ人乃あう乃やよの八重ゆらうふ  
ふふうく乃へにありひげうふ  
一條院の法時ありれへや梯と人のをわ侍り  
は前よりんへるまれハを花なまりりてうさうあ  
とおむせられけ建ハよめ教うとなわ心ハ古歸れ  
梯ハ又却乃まゆもあひうさうきううあ若れはらん

一で二度時ふあゆるんはいふまきうりなわらうもハ  
まきくくととれたてくまれ重とくへぬと面をハま  
わさましく乃うん骨なりやうりもてんせ  
乃道とぬいせぬれうあまのこすあなわみち  
にふりさりうむもくそと思ふハまらや

清少納言

類をこのそるのれを音ハはう候とも

世うあふさうれとまきハゆるさ  
しと書に大納言り如抱あうわし月ハ取物まは  
れよくもあるこそりそまかく力てはうめてさわは  
し悉にもよがされてとらひまれハ取原うわける鳥

思輝ハりんくハ世素のこ、小やとッひ修り  
くわけいハあまハお扱れとッ何れも修り  
くるけい海電いたんハ心あハお扱の世素ハゆる  
こーとハあま事とハ心とハなりそふハハハ  
あるとそふんあくとあふととげやこらうふ一首  
よよん出せかす、れ又上ま乃志わきなり人の  
哥とんよは教く修り一みちおも志ろきと思と  
心よ志めてそわりあはんをやうぬあー古人のあ  
めうめハ記をもこくくハ心ものなりれハ我  
りひ出る事事もみちむろくすむとくーんを  
めらうーとふれとすきひを思ふと素とそ承傳わ

志な微も小あふらうれふ小こつふハ詞乃字なり古  
哥小ばいしとん修り

元承大史みら海と

い海いゝとあひいたえあんとくくわと

ひとほくあつていふうーもうれ

此歌ハ伴路被交わくわくわのわわて修る人ハ  
あひひとゆひく事と大為の素くーのーて海  
まわめなと付くけいハ心いあもかよりんやにけい  
ハよんりんくわけいこれハのめよりんへきこな  
とははらと素とそーか長ゆくもりんくはよや

権伸ハ納言うくこよわ

つさかちけを治候と申すたえく小

たわつりれもつる際この河に海

はれしこい人のものふれ八十ち河に河

きつふいしよふたをば新来きつとをこりく海と

とちてよめ敷とそら海をうち山深きわらわめ

て河上は霧もつれしこき取かひ船がらけの物も

しちきむら志もめつりつるうちのくくと

わつりれつみかく被つしものなひ暇くなまはわ

りまこつちめはまへれつふとふとるよやな城の

しこ隙説成りくくしあもつち河に海乃具成へ

しちかちけを治候と申すたえく小

つさかちけを治候と申すたえく小

悪くつらふん若きつをしりれ

燕にくらふんふしをまししし連やふも海もり

相のふしとのしし路なつちなふしつんをせめての

りなるしきとこのもしこ人なととつち暇く突

うめてしきふのくらふんしと花のしち河まわ小が

ふぬ袖たよめ物とやふふめと袖をくらぬんは物

なる舟を連う人めふとつへる哀深きふやん

さうにくら海なとんあくめやうなわ六義小りふ

たうんまやうしみまひこいやまへつるうんせそて

しうくちめしきよふのくら海りをあげをなわ

大徳正行記

も旅もろくあられとおり人山はく

花うりかかりー人もた

あもきこり大みほしてふりひけは後徳の咲

くるとしてよめふおが孝いり老の入りりゆん

きやくのみほして暮人をだゆんのうゆとりあ

秋いさぬくとり魚と苗いしう秋りとつるに

やこれハゆんはとゆんなるはむりひうけぬ

さくくとんくさハ卯月くわのゆんをゆめ

のうゆ花うりかかりふ志人とお

ま能さる花うりかかりくる人もあーとソひて

くゆに又花とわ我うりかかりふ志ゆひともあ

と去心あゆなかりはゆきハ白川院は清子よてん

まん院北のゆなわやんゆあき人死方とやほ

このみ孫ふ入くとこなひたまふむわ志もあゆ

ゆらうをえとゆひのりゆゆとくむりひ入て

見ゆアーとふて新しゆゆ換とゆゆ換人乃を

かしくとそとゆゆとゆゆとあることあゆ能

と志ゆゆへあゆ事とそ

すまう肉ー

あゆゆのあゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

あつり奈小二月もくわ月何うよ兼二條山院もて  
くも物かこわしで侍ける小国分乃内月よりわし一て  
毎くもくふむいふとやま、大納言忠強をを極つ  
にこそいふ我みす乃うちへさしつ連侍りたれハ  
ももりんへつけるいふをいたまらるふもたせく  
ういふとたち入るるやふらるへしすち入るる  
とみ建のさぬりくぬあわ舟れんいぬなわつふ  
もゆよにやへーますくこ古はあかくさわあぬぬ  
おあしつへうさ乃出くはまともありしやまよや  
る摺るく乃つよ久しきとしひ小式部内月りまこ  
あこともすとしひ伴勢れたゆふうふあくのへこ

あつり内しつひなてくんとつへ海へみふ時  
れうこはほふいこくなわ女乃方とせこやうり  
らん會るしつありしつげ連

三六院

こもあもあつてうあせよなうしつ

いふしつへあへ兼救えは月つあ

こもあもあつてうあせよなうしつ

せふ勢ふしつあしつ比月乃何うか？げんをほ

あつしつとあわ秋志心、明あまはは清打、まい

世のんが二れは子なわ兩位とわはつり、五り年

よそりす急と我をまともありしつあまさをわわの

うをたすらん乃ほくくろほくふほふうわあ  
おひめはあまはあうえは心とくくあめが  
ほは哥となみりんあうへし

のふのんは

永永四年月裏よそくしあてに

何くゆくみむ海の山乃もみちの義ハ

たつふありそのあー記なわきわ

この秋ハかくれくるああーては口のりいきと

西のほまを思ひありせてえりんへほくふなわきハ

海よりふく上右の正風乃神なるへーかやいの

うことハまら代乃人あはく思ふへし

あつとろ海あん実ほみちとんえへーとそめくあり

くともあむの事とまればあまやま田河もへら

義あり海乃新に秋あうへし

のふのんは

はひのーこに若城さちりてくならじまは

つろくもむのー秋にゆふくれ

心ハ大くこのあつとろ城つろくもあーかろほる

へー我身をけえんこきまえはひのーさあ思ひ

まのそつろくもあも遊うくやとたち出うらあむ被

はつろくも又我んのかりほろハ侍ーわきう

のほひーさうとらあんしさる心なわあ



やうにすハカくいりたしそふよこのそみまハお  
とらんゆしく餘情あまらあし定家つれうこ小依  
よなを那小めとてくもくふうはれと乃そ乃夕  
とあもくくとりんへるハけしことらてあかんを  
又あふいな依を哥らん様へあさみあう

大納言つものよ

田家雜風

ゆふえれくうこの稲葉むくつまで

河乃海流をくあきく幾そく

はうこハ田家乃雜風とつよとよめり河乃乃  
金とハこあう河乃くわあつとふなわ

その田の稲葉り夕暮の秋の幾葉よくこと  
しるもきくあなす屏くあしはれぬやう吹く  
はまなかつたえを夕暮に日くしひがぬじん  
あなもやうけ五しめわたりわらわあしく侍  
アかやう乃承りあも能あちくふへきとそ

祐子内親王系記伴

おとくきくうの志乃を海のあさあは

けりや袖のぬきをくし

ふのこハ人志まのふりひあわそのううつ勢り  
たのハをあしういし海ほし多れとそ舟のあし  
なわあさふえきふあた人と去う病なわたり志の

漢字にみく我歌くやましくつた人とき依せりけ  
志やとそ突とけけーなわつくるあぬ人おらむち  
をうけはりあふ物おひひとなるくきをつよ  
と神のぬきもあうす神としくさやうけ神のきり  
眼くいつるまなわよまぬおとらんへらぬ女のう  
中は又あつ海おもしあつ

前中納言まゐり

つらさうれ尾止れくしつたふち  
電燈よりすめくともあつらん  
心ハ明なわくあつとほつひさはぬかふひあは  
うたあつ風あつとつたふおんうらうらわ

すうりつ海とえつるあつ

源俊賴初伝

うらうける人をうらせれ山お海

そくつあつあつふい乃うぬもの

はういおわのそくあつひお去たのゆてよめ

うつせにあをいほあつハすみうた物あつわに

かんくわうつせハ山中そ風もくあつなり

さふれ心ハうらわく人ときくつとハい乃ら

ぬ物とき去心なわ初あ乃山お海くくあつあ

ら初なわい乃あつく人死んのかけしけあつ

えあつれといわわさうあつあつあつあつあ

漢字の如く讀みくやましく何人とも依せりけ  
志やとて契とけりなかりくあぬ人おらむ  
をうけはりおの物おりのなるくきをりし  
と神のぬきもあらす神とてくやましく海潮のきり  
眼くいつくまなかりよもぬおのりんへらぬ女のう  
ゆは又あつ海おもしあつ

前坤 納まのいん

しつさくは尾止れくしつさくは  
電を乃すめくもあつん  
心ハ明なりくあつんはぬらふけあ  
うたあつ風あつんくふぬらうしつさく

すくみ海とえしつああ

源俊賴 納ま

うらむける人をしつせは山お海

そくしつさくは乃くぬもの

はくしつさくは乃くぬもの

まつせに雲をいほ海すハすみり物あつに

んくしつさくは乃くぬもの

こふれ心ハうらむる人とそくしつさくは乃くぬもの

ぬ物とて去心なり初樂乃山お海しつさくは乃くぬもの

ら初なり乃初樂乃山お海しつさくは乃くぬもの

えきしつさくは乃くぬもの

忘れぬ物とていつか定家瑞乃を代乃集  
おはすところ海原をいし心おぬりて  
学んぬりて  
さすのふり

ちよりとて一とせものつとと今とて

あふれぬ物とていつか定家瑞乃を代乃集

ちよりとて一とせものつとと今とて  
あふれぬ物とていつか定家瑞乃を代乃集  
おはすところ海原をいし心おぬりて  
学んぬりて  
さすのふり

といつらんをさわてちよりをきき  
さすものつとと今とて  
あふれぬ物とていつか定家瑞乃を代乃集  
おはすところ海原をいし心おぬりて  
学んぬりて  
さすのふり

法一やう寺入道前関白太政大臣

わさ乃しとていつか定家瑞乃を代乃集  
おはすところ海原をいし心おぬりて  
学んぬりて  
さすのふり

海上をいしとていつか定家瑞乃を代乃集  
おはすところ海原をいし心おぬりて  
学んぬりて  
さすのふり

あふれぬ物とていつか定家瑞乃を代乃集  
おはすところ海原をいし心おぬりて  
学んぬりて  
さすのふり

よきこと

せよとて思ふことせよとて思ふこと

よきことすまじきことありんことをおぼしめ

すまじきことすまじきことすまじきことすまじきこと

すまじきことすまじきことすまじきことすまじきこと

すまじきことすまじきことすまじきことすまじきこと

すまじきことすまじきことすまじきことすまじきこと

すまじきことすまじきことすまじきことすまじきこと

すまじきことすまじきことすまじきことすまじきこと

すまじきことすまじきことすまじきことすまじきこと

すまじきことすまじきことすまじきことすまじきこと

すまじきことすまじきこと

すまじきことすまじきこと

すまじきことすまじきことすまじきこと

すまじきことすまじきことすまじきこと

すまじきことすまじきことすまじきことすまじきこと

すまじきことすまじきことすまじきことすまじきこと

すまじきことすまじきことすまじきことすまじきこと

すまじきことすまじきことすまじきことすまじきこと

すまじきことすまじきことすまじきことすまじきこと

すまじきことすまじきことすまじきことすまじきこと

すまじきことすまじきことすまじきことすまじきこと

とくくあふくまきとのな口

九京大夫數捕

燃る勢おまひく雲のたし海も

も我心の海月のうけそとやけき

をを明なわうとしけさやいきとしくふの清工の

丹はしゆらあつちわはさう病つと新わあつとふ

さやうあつてあつともあもーろ貴あつ海はゆなわ

つうふも掌たのまうことそ

たいらんしんのんのわわ河

ふうしらんちう海もきうとくろくこの

とていれくけさばりのとをとおひ

是ハ後おれいとなわ契ととく人乃心す急と然い

とくしん心をもちうす愛とくわあつあふ事友

思ひもさあくく病としてうふ念とおひひまひあふ

んなわ女れいこそそな城のりれ深うわやみことと

れくころを教ぬくや

後西人寺尾大臣

あつときひなあはゆるくことなうむまな

あつとありあけは月そのこまな

あつとさきく鄭とと去く病あり心に待くはる

鄭あは一様あきてあともむりひふと初あき

ううをうちありむまなる船乃月れりのうなるさ海

あまのけさかーちやうぞうかまひひてゑる  
くほろまきすのこころくろくはまよふま  
よめおがまよとれハーいよないまそま  
うはまほくーさるあめあちやくー

道りんばー

はりひとひまきもとのちのわなとのと  
うまうだへぬいなるこなりわ

思ひわひまのさちもこおのまんとほまなくなら  
はるまきまのちゆへいほひなちあまあまひひ  
へ今もまきうせぬへまとうそもなほいのちのわ  
まのまきまあまのんまをぬいなるたかかけ

とらへはをまとりまてうちあげくんなりはうこと  
あこくまのへうすあまのあれせつあくはうぬそ

里人あま丈夫後

述懐乃百首の哥まのり麻乃うこと

ま乃中ーまらあうあけたあまひん

山れおくうーもあうそなくあ

うはくくのよのうはと思ひうりてとらまをりひ  
山のあく小麻れまのかあーまふうちなくま  
あまも世はうまきまのあちまおまひわひ  
てよの中ーまのまのまみちうまひま  
う地ありまんまのまーまをらまきま

おのり入山のおくおも浮事いあわ々わを病りよ  
なりよ小みちあつひかくあらんぬもとおりひ玉ひ  
ぬる休そそふりひ入ハ山おつをとも又ん小先思ひ  
入るるそもりんへあへへふみおひひいほに  
二つの義のせいのあつ物とおもひ入又かハる  
ふいものとおもひ入と二なり

藤原清満の長

あつへへしきまこめいあやあめしきん  
うーまえうーせそいぬん徳ー舞

ふぬらと小畑あつこよの申れ人よあじまー  
記りす急をよめ物でこの奇をくらんすふま

物おとく人ハこあけうへいひたよわなるへー新  
ゆはじとをほめそーせう後んしせまぐツへあハ  
つ子ほりなわくやうにふしうをせめてかこ  
志ろきも一折れりなるへし

俊恵法師

顔色はうしそのおりふし後ハあけやいぬ  
祿や乃ひまそくしあつわきり

んめあかあ浅杯を乃ひかろくしあつわきりと云  
詞定めつうーあおもひハあつなると後色ん  
りんくもやうしあつうーまそのとくもんなる  
あまーき物とまおとけいあつるすあ北みちれ



なほひあましくも縁やまの海さ人とて地あげき  
いさふとちりふへまなり

西行法師

あけをそそ月やいとのとたもひひる

かづらふかなふわりあまこころあ

月のまへりしひのまあまもすくも月小むひて  
うちあのじふよ物あひくそそ月乃我心とてこ  
ゆちむさやとくみしおもひと返してかくさへり  
少平糸の神ありえれ酒の乃風骨あまそく小待く  
らふふたは上まりそのなるてし

やくまん法師

ひささめはつ巻とまこひぬ海まの葉よ

あ勢たちのがふあき乃ゆふくれ

は秋とあふ人柱の葉にた連る村雨のたし一落り  
まよりい露のとたわさしそ秋あれ城まそその  
真もつくぬおまわれたたちのかりてあま乃ふせいと  
つらうさるさ海うとつるわまこさつさうの葉はらも  
まんはら山山秋の夕乃換せこのしこをいみ  
得とさうそそあハマきハ深山よりあま物なり祭の  
ゆあへひくはあうちそくまきくともて葉の  
志めわさるわらまもあわほさちのかあふ後と能く  
思ふへ一海まよがゆ一海くもらひくもまも

深く衣へ着けりや華詞もほくくくくく

皇女門の御別當

かふえ江の河のうり孫のひを我ゆ人

男とほくくくくくくくくくくく

これの籠者お蔭のう蔭や難波わらわ乃さひの

あつても何れぬうくぬへきとおもひ換れらま

に何れぬまうわのうめくをむりひまひく何れ

うわ孫乃一和ゆへととききて方とほくくくく

何れはまゆふなむしよくくく水の換人此若孫を

を思ひしきくたそんぬるへきも也

式の内親王

たまはをよたえあはたし孫あうへは

くくくくくくくくくくくくく

心いさのひりぬるあひと思ひぬくくく

ぬるふぬくくもあうくくくくくく

りるまうせめと思ひまひてたかれとよたえあはぬ

え孫を介り敷きなむく女名りやなとぬく志のふ

心なわな哉よりわをそするれ祠面向りんへらん

りんぬ門院人捕

見えくもねをくくぬのあまの袖ふも

ぬぬあもぬまうくくくくくく

心なうぬ乃あま乃くぬもくぬぬぬぬ物ふ披は

そととんよとめいしははしーけいしとてしぬあ  
しうちぬあう何建我神ハこうはいあ被入てわ  
袖とみせりやとりくそあ成ぬさうぬ被しとり  
とろはめつーくしひりーさるりのあ

後京極権政太政大臣

有首ハ哥まっしー時

きわくはあくやお被れはさーはよ  
しはをわしーきひとわうを被ん  
あとしにあしくハ明なわしーまわくすと  
うわひとわりとねんまきーくをきんらんわ  
は五の何れしとも被しーくまんとまはるま

暇くばりやうれを度ーしわ詞字あぬわ  
くすさしーはをぬまやしゆるなりーのふん  
尾乃志こわとのとりまをいし

二條院さぬよ

わが袖んーがひーんぬあきの石の

ひとしうきーひさくはもが

石れを縁とよあまハわ神のうひひりく  
うあまにわひふまきわあひのひと  
わりふ人にあきぬりしとあひおめぬあまの  
石とくた人出するなわあまのさあはよく  
しを物おうてぬああわはさくーや南河の女れわ

み定ぬびきり——うるうこのくまなりとぞ

う海念の若夫は

世中ハハほいおもかをぬきこくく

あぬの小船は博なてあふ——と

うれしとは何ふたとぬん乃うこことう漕舟の総手

あひ——とは二首をと替わんハぬれちくたきとくわ

て——とく楫りぬれ款とくわくわくふきこく海ハ

世中ハ何るりもあはほちくあこれちとりのまことそ

つひゆきよ城くうん——とうちならむるおわぬ——

あまの小船れおもちろくほふてひびひりを何らす

うちぶるりぬくひひはまきてつうちとちぬを

あつめてさうこめれまうにまゆゆのものもりとあま

事を行りひて世中——つひゆもろもなとよめ教

もやふ常位小あしぬり——き理なわ

糸織雅經

清草燈の山に燈の影はよあけて

ゆるらとらせくは海をうつあわ

是ハ山の志く響つもさうら——あはらとさむくあり海

さぬかたこいふ古と集れ——こととまわんしかくれ

つる水をなくこことしつひひぬあてりおそしんは

めやうやう乃まとなつふもあふ貴志んをふまよに

や侍らん葉こくすもや霜よのなとやうはらと

とほりのいかにあつてはなほさきふとそ

前大後正志ちん

おなじなくうきよのうきよめおあつて

わつらうそぬりすみうあれそて

うきよのうきよにわがふやまゝきよのうきよのうきよ

とかりひと一さい乃ドゆーやう乃う人ふは衣と

わひたきふんふちをおかきなくせふひけれんあま

とりふ字と成々らんき乃うゆとと勢ゆ人なり

んいへる前生乃うゆあつておる乃清ん十二

はあはえへうすそそ

入道前太政大臣

落花と

さかさまふりての庭のゆきなうと

ふりてのゆきなうと、かなわきり

きもらわんそへる花のゆきこころつらある物也

ふやあつて人ばいふとみし花あまゆきとあり

ふて、あられむむともなくあつて、この雪と

ときりこつらわらけ物に我かなわらわとよめ

ほらやがらんらんなるうきよそ

権中納言定家

こぬむとまらけのうきよのうきよ

ぬくやりーちの力をこころはく

こぬ人をまはわりのいふはうあはれ一真乃こもふハ  
得らぬや夕ふきとをくるハあえうせとなあタふと  
ハ極坐くくあちもまらう入ると我祈りハのどゆる  
が成の口門なるとよう人いゆるとらんかろうに  
塩やくるハ万葉の巻歌いえ侍るそよの奇々こ  
ぬ人とうのわろうのゆふたいとひひてやくを  
ハ一かろをひはけけみもこる建はくらんそくを  
しおれくる詞はひかなり黄門はま分よては百首  
に乃せうあへ上いなりひうくるあうりんへらん  
や志よりハ服と何とぞ心をたかくわかへあうりう

後二位家澄

う幾そよくあゝのど河はゆふくれハ

みうきそなつれ志家一なわき

は河小みそよよめ歌ハ万葉うりれりあへし  
意ハあゝ乃小川とあゝ乃葉小くわな一て川邊ハ  
夕暮はさう小う秋乃う病よなわさくくるあ  
といんそそみそきう夏れといゆる海しうふりつ  
もああともとひめりうくさてら控てうちぎん  
するもすくなな心地一りんへるもやの  
百首も新勅撰あも入ら控ゆる心おより決ハ家  
あわもんはあひししあはれ詞歌歌あくしう

後鳥羽院

望しもなき一人もなき一ものらきあく

よごちりふゆ人う物思ふまは

ははうさの五道とや流志むるもこさぬ北世にわ  
り事とありりては迷懐の御新あま人も  
取一人とうりりやふの中乃人ともくまそ  
世をむさまりしきとよとぬ人ほ小や又ひとりの  
上そそえれはよ流志と思ふ人のみりきりは  
わかあく流なりまきと流志をきりきふハ  
うめしきとこらあしむくゆらま中くとくも  
つる今も流志といよのおさまらうとまきと表の流  
物かりひふうへきりあそまんへらん

順徳院

まきしきやぬのきりるの志のまも

な流河まらあ流むりなわりき

もしきやとうちりりる五文字も大方みり  
聖や小初流やなと出ぬはうと流りうら流れ  
こもあさやんハ五左のすえりりとあけきあり  
あは流あらすあ乃代りふ流しじりを志ぬまハ  
なうひならに五左の流と流るま一まの流上あは  
天下もんもん乃こああ流ハ志のあとりよあもな流  
あまらあま心との人たまへ流なりは流奇とくらん  
とう乃御あハ流流志と流とらきたるつる内あ

上右此風と百世乃風との  
おりのしつとほへしとるなり

は一卷ハ東方野洲平は  
連くくうとめくはと  
トゆはうふまの  
ゆさめあうは行と  
お落とりくひ老は  
録りんへまは  
勢の海北野のひうり

明徳二年四月廿日

宗茂左判





110X  
166  
1